

英語部会主催第2回授業学研究会報告

英語部会主催第2回授業学研究会を下記のとおり開催いたしました。

- 日時 2016年8月13日(土) 15:00~17:00
会場 さいたま市下落合コミュニティーセンター
講師 鈴木政浩先生(英語部会長)
内容 (1) 初級統計手法の流れ(相関→回帰→重回帰→SEM)
(2) SPSSによる重回帰分析の出力結果の読み方
(3) 出力結果の数値をパス図に当てはめる練習
(4) パス図全体の解釈

当日の研究会の様子を報告いたします。

最初に、統計処理の手法について、第1回研究会に続く形で解説をいただきました。次に、事前に配信されていたテキスト資料に沿って、回帰分析・重回帰分析を学びます。資料には、注目すべき箇所が一目瞭然となるように、鈴木先生ご自身による赤ペン・青ペンのメモが入っていました。

「わからなかったらすぐ質問するように」と強く励まされて、最初は遠慮がちだった参加者からも、徐々に多彩な質問が飛び出すようになります。

実践演習用のSPSS出力結果も事前に配信していただきました。つまり、予習課題です。この課題を確認する形で演習の時間が始まりました。出力結果のコピーとホワイトボードのパス図を見比べながら、どこにどの数値が入るのかを確認します。

パス図に数値を入れた後は、そのパス図を解釈する練習です。先行研究とはかなり異なる数値が得られたため、それをどう解釈するのか、参加者全員で議論します。解釈の方向性が見えてきたところで、終了時刻となりました。

SPSSによる重回帰分析の出力結果は3か所だけ見ればよいことなど、お宝情報が盛りだくさんの研究会でした。参加者同士でも示唆に富んだ意見が交換され、あっという間の2時間でした。

いかに充実した時間であったかをわずかなりともお伝えするため、参加者のコメントを載せさせていただきます。

事前に、サイボウズで配布いただいていた回帰分析と重回帰分析の資料を見てはきていましたが、書いてあることがどのような意味を持つのかということを見る着眼点がわからなかったこともあ

り、伺う前は、読み取ったことがぼんやりしたものでした。

講義を聴き、実習を通して、Amosのパス図というものが結果を把握するための常套手段であること、そしてパス図を利用することで、結果全体像とそれぞれの関係がよくわかるということを知り、また、自分でどのようにパス図を描くのかを知り、回帰分析に関して、目の前が明るくなるような気分、第2回が終えられました。

全ての疑問を受け入れてくださった鈴木先生、いろいろなご意見、ご質問で様々な見方をご提示くださった全参加者の先生方、たいへんありがとうございました。

第2回研究会から参加させていただき、「回帰分析」「重回帰分析」などどのような場合に使うのか全く予備知識がなかったので、参加の申し込みをしてサイボウズに加えていただき、そこにある資料を拝見したときは、場違いなところに参加申し込みをしてしまったと青ざめました。

わずか2時間の講義でしたのに、初心者がどこでつまづきやすいかをよくご存じの鈴木先生のご指導を受けて、それまで意味不明な数字の羅列でしかなかったSPSSの出力結果からパス図を作るところまで実習することができたことは、驚きでした。

まだ一人で分析ができるようなレベルではありませんが、これまで分析方法がわからずに放置していた学生のテスト結果などのデータをSPSSにかけてみようという意欲が湧いてきました。おそらく最初は失敗するでしょうけれど、研究会で鈴木先生やご参加の先生方のアドバイスがあれば、最後までくじけずに論文を書けそうな気がいたします。このような出会いを得られたことを心から感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

第2回研究会の資料を以前に添付ファイルで頂きましたが、資料を読んでも回帰分析と重回帰分析が十分に理解できていない状況で研究会に出席しました。しかし、鈴木先生のご講義を拝聴することで、徐々に理解できるようになりました。また、パス図の描き方から、数値の入れ方、数値の見方までご教示頂き、本当に有益な研究会でした。今後は、一人でも多くの方にご参加頂き、この研究会がますます発展することを祈っております。

相関係数 r の数値に有意確率を示す(アステリスクをつける)のは、一体どういうことなのか、今まで誰にも聞けませんでした。初めて答えをいただいて感激しました。あまりに初歩的で聞きにくい質問は、研究会終了後に質問させていただきました。他の参

加者の方々も間髪入れずにコメントを下さって，理解が深まりました。鈴木先生，皆さま，ありがとうございました。

本研究会は，量的・質的両面から授業分析を行い，望ましい授業の枠組みを追及することを目的として 7 月に発足したばかりです。他教科の先生方のご参加を歓迎いたします。また，学会員以外の方にも自由にご参加いただけます。

英語部会主催授業学研究会 ホームページ

<http://msuzuki.sakura.ne.jp/jadeng/jugyogaku/index.html>